

森林に対する意識調査

(秋山郷の観光客について)

飯山・秋山担当区事務所 ○田中義裕

水内担当区事務所 小沢啓一

はじめに

近年の森林に対する関心の高まりを反映して、総理府などが、森林に対するアンケート調査を行っている。しかし、これらは国民一般を対象としたものである。そこで、森林を余暇活動の場としてとらえている人々を対象にアンケート調査を行い、今後の森林施業のあり方を探ることにした。

1 調査方法

調査は、人工的な娯楽施設がなく自然を楽しむために訪れる人の多い秋山郷で8月に実施した。配布総数300部のうち164部が回収できた。

2 秋山郷の概況

長野県の北西部に位置し、新潟県と境を接している。

(図-1)

また、上信越高原国立公園に指定されており、屋敷をはじめ数多くの温泉があり、その他、キャンプや溪流釣り、苗場山や烏甲山の登山などで訪れる人が多い。

なお、ブナを中心とした天然林が広い面積にわたって分布しており、秋山郷の景観の主要な構成要素になっている。



図-1 秋山郷の位置図

3 アンケートの課題

- (1) ブナに対する実際の知識とマスコミの影響
- (2) イメージとして描いている森林像とその由来
- (3) 森林に対して期待する機能と今後の施業のあるべき姿。

4 結果

(1) フェースシート

秋山郷を訪れた観光客の性別の割合は、男性69%、女性31%であった。年齢別の割合を、図-2に示した。このように各年齢層が、ほとんど均等な割合になっている。

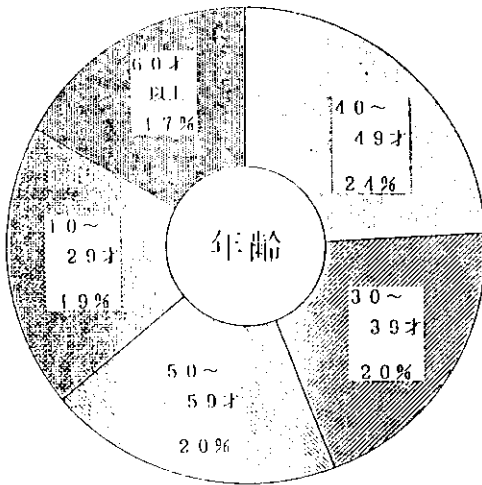


図-2 回答者の年齢構成

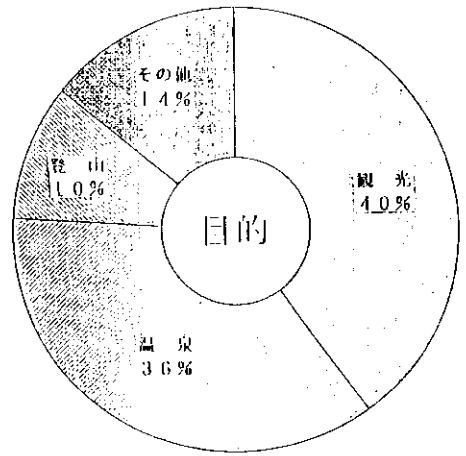


図-3 秋山郷を訪れた目的

秋山郷を訪れた目的別の割合を図-3に示した。

観光、温泉が多くデータからも秋山郷に自然を楽しむためにきていることがわかる。

(2) ブナに対する実際の知識とマスコミの影響について

「マスコミがブナを取り上げていることについて、知っているか」という問いには、84%もの人が知っていると答えており、マスコミの影響は非常に大きいといえる。(図-4)

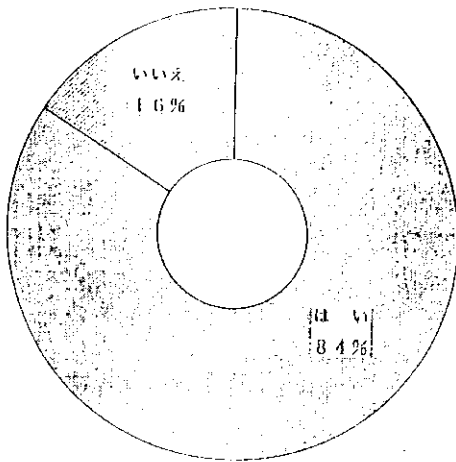


図-4 マスコミで「ブナ」がよく話題になっていることを知っているか

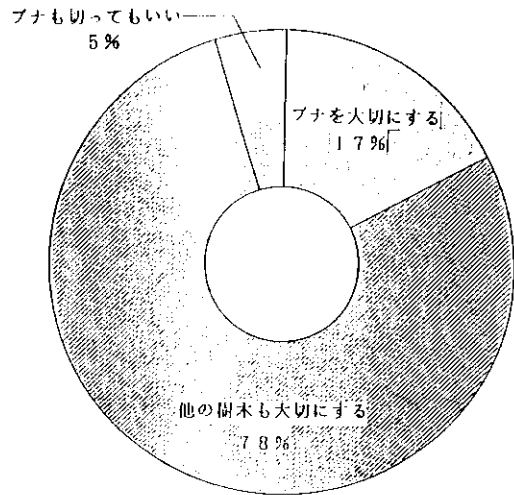


図-5 ブナの取扱い

知っていると回答した人に、「それについてどう思うか」と尋ねたところブナを大切にするが17%、他の樹木も大切にするが78%で、合計95%をしめ、切ってもいいと回答した5%と比べて極端な差が生じた。

このことから、森林は自然の状態のままにした方がいいと考えている人が大半であることがわかった。(図-5)

しかし、それらの人のうち、21%はブナと他の樹木の区別ができないと答えており、大切にするという言葉のみが先走る傾向にある。

(3) イメージとして描いている森林像とその由来について。

「森林という言葉聞いてどのような風景を思い浮かべるか」の問いには人手の加わらない森林と答えた人が82%と多かった。(図-6)

そこで、その回答をした人に、天然林を思い浮かべた理由を尋ねた。

(図-7)

子供の頃、または現在、身近に接しているという回答で66%をしめた。

人手の加わらない天然林は、特殊な地域を除いてほとんど存在しないにもかかわらず、このような回答が多いということは、自然に接することを目的に来ている人でさえ人手の加わらない天然林を認識していないことがわかる。

また、テレビや絵画を見てという回答が16%あり、間接的な体験が意識の形成の一因となることに、マスコミの影響の大きさを感じた。

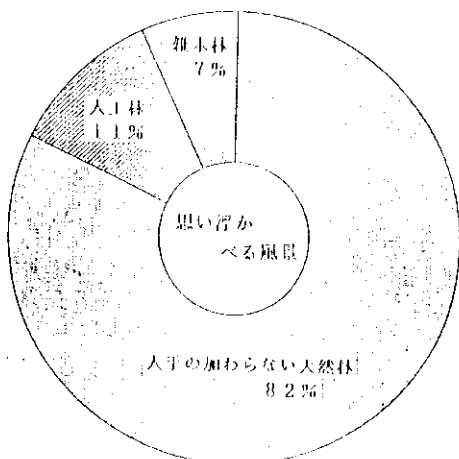


図-6 森林という言葉聞いてどの様な風景を思い浮かべるか

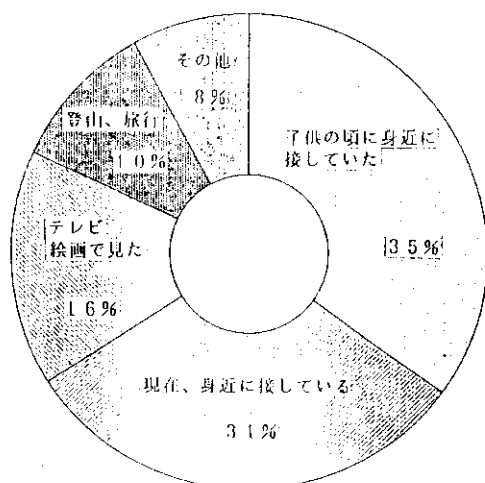


図-7 人手の加わらない天然林を思い浮かべた理由

次に身近に接したために天然林を思い浮かべたと答えた人に、ブナ以外の知っている樹木名を5つまであげてもらった。(表-1)

表-1 あげられた樹木名 (%)

マツ	スギ	ヒノキ	カンバ	ナラ	トチ	ケヤキ	カエデ	カラマツ	クヌギ
66	63	51	50	49	35	28	24	22	18

マツ・スギ・ケヤキなど、生活との関わりの深い樹木があげられており、知識としての樹木とイメージとしての森林に、食い違いが見られる。

このような回答の背景には、マスコミなどにより天然林は貴重であるという情報が与えられたため、天然林でなければならないという心理が働いたように思われる。

- (4) 森林に対して期待する機能と今後の施業のあるべき姿について「森林の持つ多様な機能のうち、どれが大機能のうち、どれが大切か」の問いには、国土保全・空気の浄化・水源かん養など公益的機能が重視されている。

また、動植物が生育する場所としての機能のように、自然保護的な考えに由来する意識も高い。

逆に、木材生産・山菜、キノコの採取の場などの生産的機能は余り期待されていないことがわかる。

(図-8)

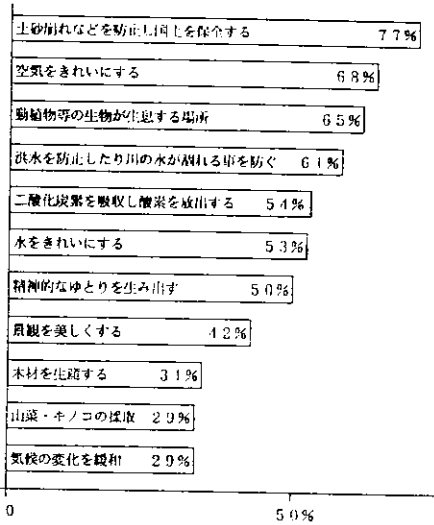


図-8 森林はどの様な理由から大切だと思いますか (複数回答)

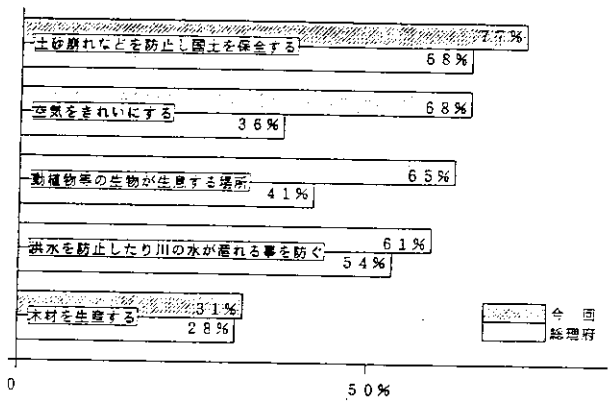


図-9 総理府との比較 (複数回答)

これを、平成元年の総理府の調査と比べると、空気の浄化・動植物の生息の場が、今回の調査では非常に高い値になっている。(図-9)

これは、秋山郷に来て、実際にきれいな空気を吸い、動植物に接したため一般の人よりもそれらの機能が重要だと感じたのだと思う。

ただ、秋山郷にも人工林があるにもかかわらず、木材生産の値に差はなく観光客が、いかに森林を生産の場としてとらえていないかがわかる。

今後、どの様に森林を取扱えばいいかの問い(図-10)には、自然保護が75%、国土保全が66%と高く、期待する機能と対応した結果になった。

木材生産は18%で、自然放置の28%よりも低く、木材を生産するよりも何もしないまま放っておく方が良いと考えている人が多いことがわかった。

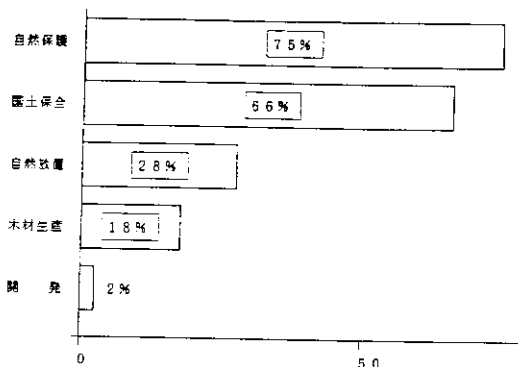


図-10 今後の森林の取扱い (複数回答)

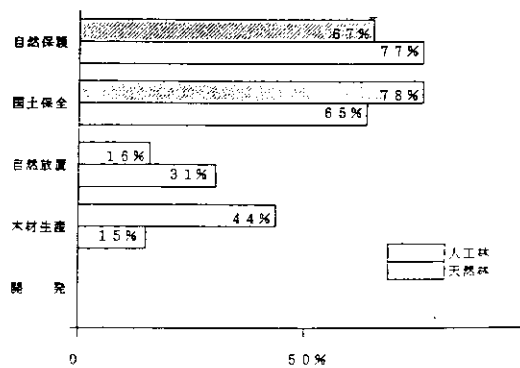


図-11 思い浮かべる森林像と今後の森林の取扱い (複数回答)

思い浮かべる森林像と今後の森林の取扱い方との関係を調べたものが図-11である。

森林という言葉聞いて天然林を思い浮かべると答えた人は、今後の森林の取扱い方について、自然保護や自然放置を望み、人工林と答えた人は、木材生産や国土保全のために森林を手入れすることを望む人が多かった。

つまり、思い浮かべる森林が天然林である人は、人工林の人よりも森林に手を加えることを好ましいとは思っていないことがわかる。

5 アンケートのまとめ

以上のようなアンケート調査から、秋山郷に自然を楽しむために訪れ森林を余暇活動の場としてとらえている人の意識は、次のような傾向があるといえる。

- (1) マスコミが自然や森林について取扱っていることに対する関心が高く、意識の形成に大きな影響を及ぼしている。
- (2) 天然林指向が高く、それが高い人ほど森林に人手を加えることを好ましいとは思っていない
- (3) 国土保全や水源かん養など、森林の公益的機能をより重視し、木材や山菜などの生産の場としての機能はほとんど期待していない。

6 秋山郷での森林施業の一試案

このような意識を持つ人々の訪れる秋山郷での今後の森林施業の方法を考えた。秋山郷は、苗場山頂付近に高層湿原や亜高山帯植生があり、中腹にブナの天然林やスギ・カラマツの人工林が存在している。

(1) 高層湿原や亜高山帯植生

登山や自然観察など、自然にあまり手を加えない形での利用に止める。そして、佐武流山周辺森林生態系保護地域の設定により、天然林の保護と同時に林野庁も天然林を保護していることのアピールに努める。

(2) ブナなどの天然林

景観を考慮しながら、更新可能な箇所について小面積皆伐か択伐を行う。また、ブナ・ホオノキ・ミズナラなどを優先樹種とするため、育成天然林施業を行う。

(3) スギ・カラマツの人工林

できるだけこまめに除間伐をおこない、手入れをすれば良い森林になることを観光客に見せ、人工林の良さをPRできるような場にしたい。

(4) その他

意識の形成に与えるマスコミの影響は大きいので、マスコミを利用した、
本当の森林のあり方をPRしていく必要があると考える。

おわりに

現在林業を取り巻く状況は厳しく、その反面、森林に対する期待は大きくなって
いる。今後は、その期待に応えながら同時に森林を整備し、質量ともに豊かな森林
資源の育成を図ることが国有林の使命であると考えます。